



スケトウダラ（根室海峡）

①

スケトウダラは北太平洋に広く生息しており、本評価群はこのうち根室海峡で漁獲される群である。



図1 分布図

本資源は北方四島水域やロシア水域などに跨って分布する。日本漁船の操業水域には主に産卵期に来遊すると考えられる「跨り資源」である。

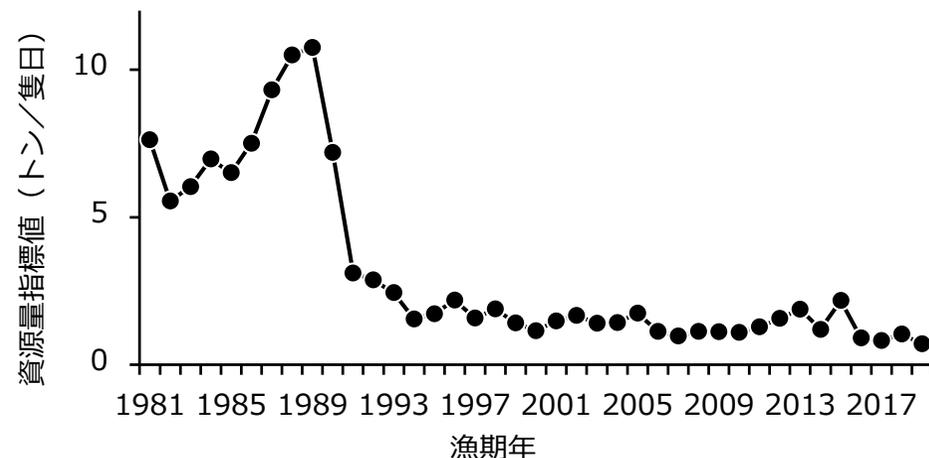


図3 資源量指標値の推移

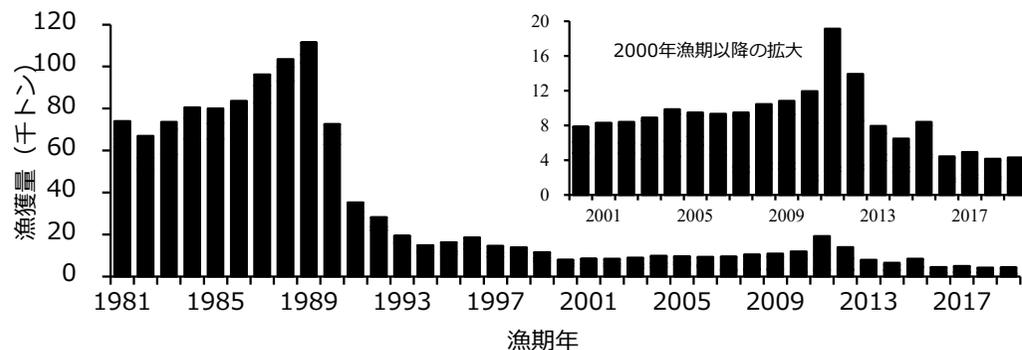


図2 漁獲量の推移

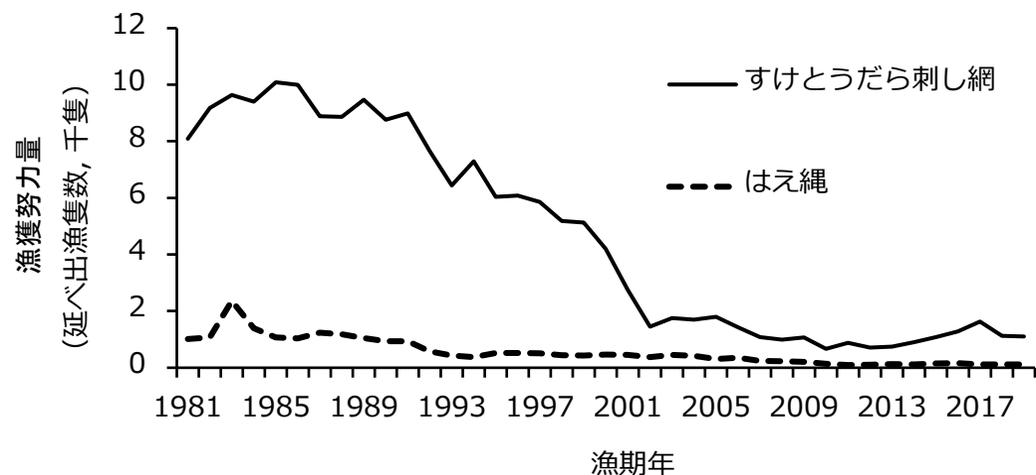
本資源の漁獲量（漁期年（4月～翌年3月）で集計）は、1989年漁期の11.1万トンを超えて2000年漁期には1万トンを下回った。2010年漁期前後に再び1万トンを超えて漁獲されたものの、その後減少して2016年漁期以降は0.5万トン以下で推移している。2019年漁期は0.4万トンであった。

羅臼地区のすけとうだら専門の固定式刺し網漁業による延べ出漁隻数当たり漁獲量を、評価に用いる資源量指標値とした。2002年漁期以降は本格化したブロック操業のデータを除いた。

ブロック操業： 操業コストの削減を目的に、複数の経営体がグループを作り、代表する1隻が操業を行う操業形式

スケトウダラ（根室海峡）

②



※すけとうだら刺し網の2002年以降はブロック操業を除く値

図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、すけとうだら刺し網漁業では2002年漁期まで大きく減少してその後はほぼ横ばい、はえ縄漁業も1983年漁期を最高にその後減少した。隣接海域におけるロシア漁船の漁獲量・漁獲努力量は不明である。

本資源では資源量指標値を回遊してきた資源の来遊量と資源利用の指標と考えて、その資源量指標値のデータ範囲の中で求められた平均水準・過去最低値を評価の基準にすることを提案する。2019年漁期の資源量指標値は、過去最低値の水準である。

本資源の管理基準値等の検討について

本資源は隣接水域に跨って分布し、日本漁船の操業水域における情報のみでは資源全体の動向を捉えることが出来ないことから、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値（資源量水準）案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

本資源では、来遊量の年変動に配慮しながら漁獲を管理することが重要である。

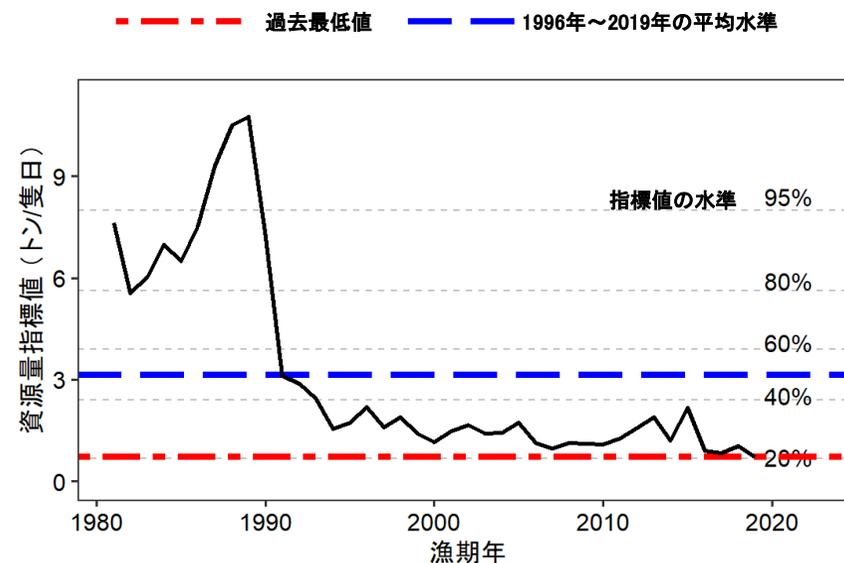


図5 資源量指標値の過去最低値と平均水準